

令和5年度 第1回 魚沼地域定住自立圏共生ビジョン懇談会 議事録

と き：令和5年9月27日（水）14時から16時まで

ところ：南魚沼市図書館 多目的室

1 出席者

魚沼地域共生ビジョン懇談会委員（以下、各市町五十音順）

○魚沼市

大桃とみい委員(欠席)、高橋和利委員(欠席)、高村保孝委員(欠席)、星麻衣副会長

○湯沢町

岡本奈緒委員(欠席)、貝瀬健太副会長、笛木真理恵委員、高橋淳夫委員(欠席)

○南魚沼市

飯淵哲委員、上村真史委員(欠席)、関聡会長、田村定子委員(欠席)

各市町職員

●魚沼市

事務局：企画政策課 今井主任

●湯沢町

事務局：企画観光課 平賀係長

●南魚沼市

南雲総務部長

事務局：高橋企画政策課長、小林行革主幹、由良主任

2 議事

【1】開会 （進行：高橋企画政策課長）

【2】挨拶 （南雲総務部長）

【3】議事 （進行：関会長）

関会長）今日は、それぞれの御職業がある中、時間を割いていただき感謝を申し上げます。今日は、共生ビジョンのワーキンググループの事業計画や共生ビジョンの変更案について審議する。共生ビジョンの変更案は主に数字の更新で大幅な変更はない。

これから2市1町で効率化を図り、暮らしやすい街をつくるために協力していかなければいけない状況である。次第4の「その他」で、自由に御意見をいただきながら今後の共生ビジョンに民の意見をしっかり取り入れていただくよう、活発に議論をいただければと思う。それでは議事3(1)の説明を事務局から説明を求める。

(1) 令和5年度の各ワーキンググループの事業計画について（説明：由良主任）

使用資料・・・資料1、資料2

関会長) ワーキンググループの事業計画について、意見・質問はないか。

(委員: なし)

関会長) 事業計画については、この方針で先に進めさせていただく。

(2) 第2期共生ビジョンの変更(案)について(説明: 由良主任)

使用資料・・・資料3

関会長) 主な変更点は数字の更新になるが、意見・質問はないか。

(委員: 意見なし)

関会長) それでは、共生ビジョンの変更案を懇談会の総意として事務局に渡したいと思う。

【4】その他 (進行: 関会長)

(1) 魚沼地域定住自立圏の今後について

関会長) 冒頭の南雲総務部長の挨拶にもあったが、非常に人口が減ってきているということで、これを何とか住みやすい街にしていくには単体の自治体では難しいので連携をしていこうということで共生ビジョンが始まった。民の自由な発想で、「こんなことをしたら良いのではないか」といった御意見をいただき、是非、行政に反映していただきたい。

私から思うところを何点か発言させていただく。ここ10年くらい、同じような会議で会長のような立場で出席しているが、今日の会議に関して、委員の12分の5しか出席していないのが現実。ここまで出席者が少ないのは初めてで、民の方が意義を感じていないのだと思う。私が思うに、なぜこうなっているかというのは、意見をしたことに、「これはこういう状況で現実無理です。」や「この意見の一部は取り入れました。」などのフィードバックが返ってこないことにあると思う。この会議についても、せつかく意見が出たら、できるもの、できないもの、中期で検討するなどのフィードバックが必要と思う。

先日(9月21日)、「車座トーク」で花角知事とディスカッションする機会があったが、そのような場ですぐにフィードバックがあると「やはり知事と話したいな」と優秀な人が集まってくると思うし、フィードバックがなければ言っても仕方ないとなって人は減っていく。

一つ例を言うと、2年前くらいに「おいしい食べきり運動」について、ホテルなどに「食べきるコースター」が置いてあるが、ホテルなどでの宴会で食べきることは難しい。シーズンになるとそのような場所での食事の機会が多くなり、毎回食べ

きっていたら身体にも影響が出る。値段は変えず、量はほんの少しにして、良いものだけを出してもらうという方向に変えないかと発言したら、皆さんから良い反応があったが、状況は変わっていない。それが会議の出席者が少ない状況につながっている。そのため、もう少し本気で民の意見を聞いて、国に言われた通りの事務をするだけでなく、民間の意見を活かしていただきたい。

私の意見だが、まず1点目、学生の7割くらいは外に出てしまっており、我々企業も人が取れなくて苦勞している。その中で、市町村では企業説明会を行っているが、説明会で回れるのはせいぜい2、3社くらいで、ブースでの説明だけでは、その企業が実際何をしているかそれほどPRできない。そんな中で、子どもの職場体験施設の「キッザニア」のように、子どもが将来これになりたいと思えるような取組として、調べると出ると思うが「リアル・キッザニア」のような形で、昔、青年会議所でイベントを企画したことがある。河川敷に30くらい企業を集めて、建築業者がその場でちょっとした家を建てるなどした。子どもたちが来るように六日町祭りとかラボして実施した。地域での働き方を楽しいイベントを通して伝える。例えば、3日間で小中高の授業の一環として「リアル・キッザニア」のようなものを実施するなど、地域の働き方をPRするというのは市町村が主導できる。財源については、人手不足の状況から、企業もお金を出すと思う。こうした取組を授業の一環としてできるとすごく良いと思う。当然、2市1町でバラバラにやらずに1か所でやるのが良い。

私は以前、東京の企業に勤めていて、祖父の会社を継いでこっちに来たが、働き方、暮らし方、遊び方が全然違う。私は両方を比べた時は絶対にこっちで暮らした方が人として幸せだなと本当に思っている。地域の働き方、暮らし方、遊び方のうち、働き方は「リアル・キッザニア」で、暮らし方と遊び方をどうするか。中学生くらいを対象に、動画を作って流しても良いと思うが、南魚沼、魚沼、湯沢の働き方、暮らし方、遊び方の講座を年に1回くらい行うなど、学生にPRできると、一回外に出てもいづれ戻ってくる可能性が高まるのではないかなと思うので、2市1町でやれると良いと思う。

委員) 今、関会長の話を聞いて、この地域に住みたいのか、それとも都会に住みたいのか、それぞれ考え方はあると思う。私は毎日東京から通っているおり、ここに住むという選択もあるが、通って2年に経つ。15年前くらいに一度こっちで仕事をしたときには、3年間湯沢に住んでいた。今回はいろんな理由もあって住まない選択をしたが、住まない理由の一つに医療と商業施設の問題が個人的にひっかかっており、そういった不便さはぬぐい切れない部分がある。そのあたりは、2市1町としてどのように対応できるか。今に始まった話ではなく、前々からそういった話はあったかと思うが、ずっと考えていた。

あと一つ、私は学校にずっと勤めているが、実は南魚沼市出身、魚沼市出身、湯沢町出身の学生はたくさんいる。その方たちが卒業した時にどこで仕事をするのかというと、この地に留まる学生より外に出る学生の方が多い。私が学生の話聞き、見てきて気づいているのは、若いからこそ、ここを離れてもっと外を見たいと思うこと、もっと言えば、日本に留まっていなくて外国に行くことも大切だと思う。若いうちに、いろいろな文化や人のことも含めて吸収して学び、そこでいろいろな気づきや経験、成長がある。これからの若者たちは、一つのところに留まり、そこでずっと一生暮らすという選択は本来違うのかなと個人的には思っている。

外に出ることは全く問題なくて、ただ自分が生まれ育ったこの地をどこかでいつか思い出した時に、「最後はここに戻ってこよう」などの自然の感情として湧き上がってくるものだと思う。そういう時に、ここに戻ってくる気持ちが高ぶるものが何なのかを考えていく必要がある。それが先ほど話したように、医療、教育、商業などの部分の問題もあるが、とても自然豊かなすばらしいこの土地で、都会にはない魅力がたくさんあるので、その部分と自然の部分がうまく共存していけば、もっともっと人が留まるし、一回出て行った人たちが戻ってくることもあると思った。私はずっとここで生活しているわけではないので、いろいろと御意見もあるかと思うが、個人的な感じ方としてはこのように思う。

関会長) 確かに良いところと悪いところが両方あるので、それを PR していくのは良いことだと思う。私は 44 歳で、40 歳くらいから同級会をやると結構帰ってきている人もいる。親が高齢でそろそろ面倒を見ないとまずいと思っている人もいるが、東京の今の仕事を南魚沼で探すと半分くらいの年収になるから暮らせないといった意見が、特に男性で多かった。

無料帰省バスも早く魚沼、湯沢も一緒にやろうということで動いているが、状況はどうだったか。

事務局) 今年の 8 月に 2 市 1 町で実施したと聞いている。

関会長) 私は無料帰省バスのバスガイドをやらせていただいて、そこで地方の働き方、遊び方、暮らし方のガイドをすると利用者から良い反応が返ってくる。例えば、地方は都心の 7 割の給料で生活できるということで、こっちで 5 万円の 2LDK のアパートが向こうでは 15 万円、こっちで 3 千円の駐車場が向こうでは 3 万円かかる。私の会社の東京支店だと、3 万円の駐車場代が 3 台分で、駐車場だけで月 9 万円かかっている。こうした水準の話をする学生からは、そうだったのかと反応があるので、このような視点も学生のうちから耳に入っていると違うと思う。

委員) 私は特別養護老人ホームに勤めており、先ほど関会長がおっしゃったように職員不足というのがずっと続いている。それが日々の一番の悩みと感じている。職員不足によって、入居者の方、利用者の方へのサービスが満足にできず、職員も「本当はこうしてあげたい」という気持ちがあっても時間がない状況で、自分たちの身体はどんどん疲労が溜まっていく日々。

私は特養の入居の方を担当しているが、やはり、入居の申込があったときに職員の人数や配置の関係で今は受け入れられないという判断をせざるを得ないことがある。その後、圏外の施設に一時的に行かれる方もいらっしゃる。そういったところを日々見ていると、湯沢町のマンションに移住されてくる方もいるが、若い時は都会に出て過ごされてこっちに戻って来られる方も含めて、ここで最後まで安心して過ごせるような日々が実現できるようにしていけると良いと感じる。どこの業界も人手不足かと思うので、学生へのアピールはやっているかと思うが、先ほど関会長がおっしゃったような中学生へのPRも必要なのかなと感じた。

関会長) どこも人手不足なので、これから人がどんどん外に出て行っても、帰ってくる施策がどこの業界でも大切だと思う。

私は以前、国際情報高校の外部講師を6年間やっていたことがあり、地域を盛り上げるためにいろいろ取り組んできた。私の授業を受けた十何人の学生の半分が地方創生学科を進路にしたこともある。学生は影響されやすいところもあると思うが興味を持ったからこの進路にしたということだった。「ほとんど知らないけど、とりあえず東京に行きたいから」ではなく、正しい選択肢を示すようなフラットな授業を市は中学生に、県なら高校生にできれば良いと思う。

委員) ここまでの話を聞いて、ここにどう反映できるかとか考えたが、思ったことを伝える。環境に関して、私は県の新潟県地球温暖化防止活動推進員を務めたり、環境について自分の講座を開いたりしている。魚沼市の話だと、環境に対して補助金などを出しているが、なかなか広報があまりうまくいっておらず、知らない人が多いというのが現状である。今日の資料の中にはペレットの補助金があると書いてあるが、どれだけこれを知っている人がいるか。家を建てるのも二重サッシが良いとか、今はZEH（ゼッチ）も話題になっているが、せっかくそういった取組をしているのに、知っている人が少ないことがすごく気になっている。広報の連携事業の話もあったが、いろんな人に広く伝えることができれば、他の連携事業も効果が出るのかと思った。

職業については、私はスクールカウンセラーで、学校に行って授業をすることがある。授業の中で、将来の夢みたいなものを書く項目があったが、「仕事について憧れない」と書く児童もいた。知らない、どういったものがあるか分からないと

というのは、自分がそうなりたいという思いが生まれるような場を見ていないのだと思うと、先ほど会長がおっしゃったような体験を通して、「自分はこれが向いているかも」とか「ちょっと興味があるかも」といった考えにつながっていくとよいなと思って聞いていた。是非、先ほどのキッズニアのような取組ができれば、楽しく自分の将来についても考えることができるのではないかと思った。

公民館講座の相互利用事業で検討している少年少女合唱団の話に少しかかると思うが、令和7年度から部活動が地域移行する。各市町の教育委員会がそれぞれで取り組むものと思うが、子どもの数が少ないので、団体戦がまず組めない。大会がどんどん縮小されており、部活によってはいきなり県大会のような状況もある。そのうち部活動に関しても2市1町で組むことも視点に置いた方が子どものためにも良いのかと思った。

これは親目線の話だが、例えば、子どもを産むと10万円など、子どもを産む時期の補助は手厚いが、子どもにある程度の学力をつけて成人させたいと思うと、高校や大学の時に一番お金がかかることになるが、その時期の支援があまりないと考えてしまう。先ほどの話もあったが、外に出していろいろなものに揉まれて知識を得て帰ってくるような良い人材を確保したいと思うなら、そこにもお金をかけないと難しいと思う。人口を増やすことも大切だが、人口を維持すると考えたとき、今いる子どもを維持し、良い人材として考えていくことも一つ大切なことかと思った。

最後に婚活について、このあたりは詳しくないが、30代の女性の方々から聞いたのは、魚沼市の市報でも婚活の募集があったが、皆さんからは「行かないよね」という意見を聞いた。理由を聞くと、人数が少ないこと、年齢層が高いこと、参加費が高いといったものだった。それだとマッチングアプリの方が楽しく出会いがあり、広がりがあるのではないかとの話をしていた。それこそ外の人とのつながりの方が大きくなり、出ていく人の率が高くなってしまわないか。今、一生懸命いろいろやってくれていると思うが、婚活の募集の方法についても、もう一つ何か工夫があると良いかと思った。

関会長) 少子化対策や広報などの意見をいただいた。今はモバイル化が当たり前になってきて、10年前は紙で会議が当たり前だったが、今は私の会社の会議はタブレットに変えた。当時は批判もあったが強制的に進めてきた。タイミングだと思うが、市報なども徐々にアプリに移行できると良いと思う。紙だとかなりの費用がかかっているだろう。アプリであれば利用者の必要な情報だけ通知するようにもできる。どこかのタイミングで紙の市報をやめるとなると批判が出るが、それも3年経てば普通になると思う。普通にスマホを操作できる60代、70代の方もいるので、広報についても(アプリに移行するのは)どこかのタイミングかと思った。少子化対策についてもできる限りの対策が必要だと思った。

委員) 今日、何回も話が出ていたが、やはり人手不足というのがコロナ禍で本当に顕著になってきたなと思っている。私は観光の仕事をしているが、ホテルで客室は空いているがスタッフがいなと受入ができない、スキー場もスタッフがいないからリフトが回せないということになる。昨年度から湯沢町がマッチボックス※を開設し、南魚沼市も近く開設すると思うが、スポット的にフォローが入るようになった。しかし、そもそもの数が少ないことを考えると、今の共生ビジョンには「人手不足」などのフレーズがあまり出てきていないと思うので、このタイミングで人手不足の解消に向けた事業を掲げて取り組んでいく必要がある時期になったのではないかと思う。どの事業に位置付けるかは、今後考えていただければと思うが、人手不足の解消に関する部分に関して、民間だけでは、たぶん対応しきれない次元まで来ているのではないかと思う。そこを是非、事業化していただけるとありがたい。

【補足：「マッチボックス」の説明】

湯沢町では、令和4年7月1日に湯沢町公式の求人サイト「ゆぎわマッチボックス」を開設し、湯沢町内を就業地とする単発・短時間の求人情報をまとめて掲載している。

南魚沼市においても、令和5年10月1日に南魚沼市公式の人材マッチングサイト「南魚沼マッチボックス」を開設し、単発バイト・体験就業の求人情報を掲載している。

もう一つ、今年の春、路線バスの問題があったが、まさにこの圏域の話ということで、そういう時こそ、この組織体が存在意義を発揮する場面なんじゃないかなと思った。特に二次交通に関しては、公共交通機関がないと困る人がいるという中で、あのような報道が出ると不安に思う人も出ると思う。今回、路線バス支援事業の事業計画の中で、事業者等と協議をすると書いてあるが、是非、特に力を入れてやっていただくと、2市1町の取組がもっといろんな方に伝わると思った。

関会長) やはり、地方には、足がないと暮らせないので、どう維持していくのかを本気で考えていかなければいけないと感じた。

私から、もう1点。私の理想だが、20年後か30年後に地方がものすごく輝く時代が来るのではないかと想像している。というのも、これまでちょっとした打ち合わせのために東京を行き来しており、時間も費用もかかっていたが、ここ2、3年でweb会議が当たり前になってきた。今後、IoTやICTが一気に進むと思う。

あまり現実的ではないと思う人が多いと思うが、「空飛ぶクルマ」ということで、令和3年の国土交通省航空局の資料では、具体的なルールを決め始めている。資料

は2年前のものだが、2023年には事業をスタートし、地方が都市より先に2020年代半ばには人の移動を目指し、都市での人の移動はその後となっている。2030年代には実用化を進めていくとしている。そのうち、関越自動車道は物流のみの大型車が無人で走るようになるのではないかと。

今後、都心にいなくても暮らしやすくなると思う。富山市のコンパクトシティは30年前の構想で物理的に人を集めるものだったが、今度は時間的なコンパクトシティができてくると思う。わざわざ人が移動しなくてもよくなり、都心にいなくても仕事ができる時代になってくるだろうし、都心に遊びに行くにも、どのような交通網になるかはわからないが、もっと早く行けるようになれば、地方にも人が流れるようになる。30年後の圏域人口が8万人になってしまう中で、今のうちから、「空飛ぶクルマ」のランドデザインを作りながら、暮らしやすい都市構想があるのは素敵だと思う。

実際に「空飛ぶクルマ」が一般化してからでは、「地方でも時間的なメリットができて、暮らしやすくなりました」というPRを始めても遅い。全国の市町村が一斉に動き始めることになるからだ。だから、今からランドデザインを描き、共生ビジョンの資料に添付できるようになると私は魅力的だと思う。

ちなみに、新潟県内で省庁が移転するなどの話はあるか。

南雲部長) 今、会長が言われた省庁移転は前から言われていることで、我々、地方行政を担う人間にとっては、非常にありがたいし、そのように進めば良いという考えがあるが、実際のところ、新潟県や他の県でも進んでいるという情報は聞いていない。

1つ省庁が来ることで、そこから街づくりとか圏域づくりができてくる。民間の企業も絶対くるという思いはあるが、なかなか動きがない状況。もう一つは防災上の観点として、日本全体の防災を考えた場合に、都心に省庁が一極集中している状況は厳しいと思っている。そういうことから省庁の分散化は必要ではないかという思いだが、なかなか地方の声が届いていないのが実態である。

関会長) 職員の人材育成については特別区とも交流があるか。

高橋課長) 友好都市は江戸川区だが、職員の人事交流は行っていない。

南雲部長) 特別区との人事交流を行っていないのは、現実的な話として給料の水準が大きく違うこともある。

関会長) 民間企業との人事交流は良いと考えている。例えば、300人規模の会社の経

営企画室などに2年間出向するなど、民間、県、都会の間で人事交流があるとすごく職員の視野が広がると思う。守秘義務の関係もあると思うが、逆に我々民間も官に出向するなどの交流があると良い。

他に意見等ないか。

委員) この会議もいずれweb会議にできないか。1か所に集まるから今日の会議に出席できない委員もいたのではないか。

関会長) リアルとweb会議の両方で、ハイブリッドの形でできると良いと思う。機材もそろっているMUSUBI-BAで開催するのも良いのではないか。リアルの方が会話の受け答えがしやすい部分もあるが、ハイブリッドの方法は検討いただきたい。

東京から通勤する委員の話があったが、朝の時間帯の上越新幹線の下りは、ガラガラの状態か。

委員) 朝の下りはガラガラ。

関会長) 極端な話にはなるが、空の状態の新幹線を走らせるくらいであれば、向こうに住んでいるがこっちで働いている人に向けて、料金を半額にしたら良いと考えている。

南雲部長) 今、会長がおっしゃったものとは逆になるが、湯沢町の施策では、湯沢町に住んでもらい、東京への定期代を出すという取組は行っている。

関会長) 浦佐駅の利用者数が少ない状況もある。地方が活気づくから人は移動するので、その地方がダメになると人がいなくなってしまう。仕事においても定期代が半分になるのは大きいと思う。

それでは時間なので、次第4「その他」を締めさせていただきます。

事務連絡 (説明: 高橋企画政策課長)

【5】閉会 (関会長)

(16時閉会)